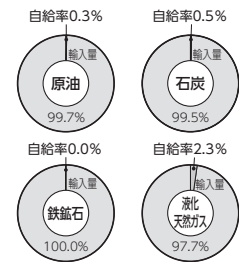


1. 資源を輸入に頼る日本

- (1) 資料Ⅰを見て、日本の鉱産資源の自給率の特色をまとめてみよう。

(例) 日本の原油、石炭、鉄鉱石の自給率は1%以下であるなど、
鉱産資源の自給率が非常に低い。

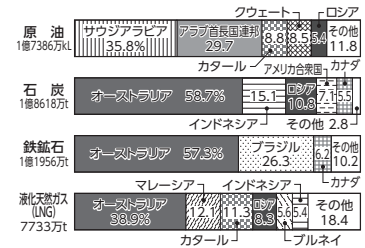
資料Ⅰ 日本の資源自給率



- (2) 資料Ⅱを見て、日本が資源を多く輸入している国を読み取ってみよう。

(例) 原油はサウジアラビアなど西アジアの国々が多く、石炭と鉄鉱石、液化天然ガスの輸入先の第1位はオーストラリアである。

資料Ⅱ 日本で消費している資源の輸入先



- (3) 日本が資源の自給率を高め、輸入先を増やすための取り組みを説明してみよう。

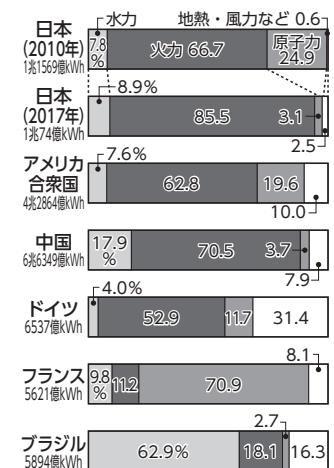
(例) ロシアと協力して原油や天然ガスの開発を進めている。

2. 生活を支える電力

- (1) 資料Ⅲを見て、世界の主な国々と比較し、日本の発電量の内訳の特色をまとめてみよう。

(例) 日本は、火力発電の割合が85.5%と高く、2010年当時よりも高くなっている。

資料Ⅲ 主な国の発電量の内訳



- (2) 2010年から2017年の日本の発電量の内訳が変化した理由とその課題を説明してみよう。

理由 (例) 2011年の東北地方太平洋沖地震の津波で発生した原子力発電所の事故をきっかけに、原子力発電の利用が見直されたため。

課題 (例) 火力発電は化石燃料を使用するため、二酸化炭素の排出量の増加は、地球温暖化に影響を与えるのではないかと心配されている。

本時のまとめ

◆ 資源の少ない日本の取り組みについて、「リサイクル」と「省エネルギー」の語句を使って説明しよう。

(例) 資源のリサイクルや再生可能エネルギーの利用のほか、消費電力の少ない家電製品の開発など、省エネルギーの技術を生かした取り組みが行われている。